

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名: 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
花園観光バス(株)	<p>【R6.10.1～R7.3.31】 北部シャトル便 ① 深谷駅北口ー深谷警察署(西)、大寄公民館ー渋沢栄一記念館ー旧渋沢邸「中の家」 ② 深谷駅北口ー新井郵便局前、福寿荘前ー新戒</p> <p>(車両減価償却費等国庫補助金申請系統)</p>	<p>・市民アンケート、公共交通利用者ヒアリング調査の実施</p> <p>・深谷市地域公共交通計画の進行管理</p> <p>・深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画の進行管理</p>	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>◎各目標値は「深谷市地域公共交通計画」において設定されている数値を参考にしています。</p> <p>【目標1:利用者数の増加】 (目標)51,382人 (実績)50,441人 ※昨年度実績 51,646人</p> <p>【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)54.8% (実績)70.7% ※利用者アンケートの結果</p> <p>【目標3:収支率の向上】 (目標)12.3% (実績)10.9% ※昨年度実績 9.3%</p> <p>利用者数及び収支率は目標を達成することができなかったが、収支率については昨年度より改善が見られており、良い方向に推移している。 利用者数については、R7.4に実施した北部シャトル便の運行再編の影響により一時的に利用者離れが発生していると考えられる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数は、利用者数・収支率共に順調に回復している。</p> <p>令和6年3月に策定した「深谷市地域公共交通計画」に基づく進捗管理を行うことで、引き続き地域における望ましい公共交通ネットワークを維持するため、安心・安全なコミュニティバス運行に努めるとともに、利用者満足度の更なる向上を目指し、適宜路線再編やサービスの改善等を実施していく。</p>
	<p>【R6.10.1～R7.9.30】 南部デマンド</p>					
深谷タクシー(有)	<p>【R6.10.1～R7.9.30】 北部デマンド 西部デマンド</p>	<p>・深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画の進行管理</p> <p>・深谷市コミュニティバス「くるりん」デマンドバス再編計画の進行管理</p>	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>		
深谷観光バス(株)	<p>【R7.4.1～R7.9.30】 北部シャトル便+周遊便 ①深谷駅北口ー深谷市民文化会館前、大寄公民館ー渋沢栄一記念館ー旧渋沢邸「中の家」 ②深谷駅北口ー深谷中央病院前、新井郵便局ー深谷大里看護専門学校 ③深谷駅北口ー旧渋沢邸「中の家」、深谷大里看護専門学校ー深谷駅北口(循環型)</p>		A			

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名：	深谷市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>深谷市は面積が138.37Km²、人口141,268人(R2国勢調査)で埼玉県の北西部に位置し、平坦な地形を呈している。また、市内には広域的な移動手段であるJR高崎線と秩父鉄道の2つの鉄道で計7駅が整備されており、この鉄道と結節する地域間移動の足として、市内に民間路線バスが4路線運行されている。(令和6年12月に1路線が新たに運行開始した)</p> <p>コミュニティバス「くるリン」(定時定路線)は、これらを補完する役割として平成12年度から本格運行し、令和7年4月から現運行を開始している。</p> <p>また、定時定路線ではカバーしきれない地域の細かな移動ニーズに対応すべく、コミュニティバス「くるリン」(デマンドバス)を平成27年4月より運行開始し、令和4年4月より現運行を実施している。</p> <p>人口減少、少子高齢化が進展する中、生活に必要な公共交通網の維持・確保は益々困難になることが想定される。当市においても、直近5年間で民間路線バスが2路線廃線となっているほか、令和5年7月に市内タクシー会社3社のうち1社が廃業したことで深刻なタクシー不足となり、地域住民の移動に大きな影響が生じている状況である。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、コミュニティバス「くるリン」の運行を確保・維持することで交通弱者の足の確保および交通空白地帯の解消を図り、地域住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p> <p>また、令和6年3月に「深谷市地域公共交通計画」を策定し、「市民と来訪者の移動を支え、誰もが安心して利用できる持続可能な公共交通ネットワークの形成」を基本方針として定め、将来持続可能な公共交通の実現のために、生活交通のみならず、観光交通としてもコミュニティバスの採算性を考えていく旨を規定した。</p> <p>市民にとって「住み続けたい」、「安心して暮らすことができる」公共交通であること、また、来訪者にとって「車でなくても移動に困らない」、「安心して利用できる」公共交通を目指し、本計画を推進することで将来に渡って持続可能な公共交通の維持確保に努めていく。</p>

